

**情報通信審議会 情報通信技術分科会放送システム委員会
マルチメディア放送システム作業班 アドホックグループ3 (第3回)
議事概要 (案)**

1 日 時

平成21年4月17日 (金) 10時00分～11時20分

2 場 所

総務省 低層棟 1階共用会議室3

3 議 題

- (1) 前回議事概要 (案) の確認
- (2) アドホックグループ3 報告 (案) について
- (3) その他

4 出席者 (順不同、敬称略)

黒田リーダー (日本放送協会)、長妻 (NHKアイテック)、仁平 (エフエム東京)、中嶋 (シャープ)、大口 (TBSラジオ&コミュニケーションズ)、中村 (デジタルラジオ推進協会)、高柳 (電子情報技術産業協会)、岡田 (道路交通情報通信システムセンター)、大野 (東芝)、小川原 (日本航空インターナショナル)、塩野入 (日本電気)、児玉 (日本放送協会)、土田 (日本放送協会)、江島 (パナソニック)
【事務局】羽多野、北崎、田窪 (総務省放送技術課)

5 配付資料

資料3-1 前回議事概要 (案)

資料3-2 アドホックグループ3 報告 (案)

参考資料1 マルチメディア放送システムの共用条件に係る調査検討報告書 (抜粋)

参考資料2 情報通信審議会 情報通信技術分科会放送システム委員会報告 目次 (案)

6 議事概要

事務局より配付資料の確認が行われた後、以下の議事が行われた。

(1) 前回議事概要 (案) の確認

アドホックグループ (第2回) 議事概要 (案) が了承された。

(2) 委員会報告資料

資料3-2、参考資料1に基づき、黒田リーダー及び土田構成員よりマルチメディア放送システム作業班での報告資料について説明が行われた後、以下の質疑応答

があった。

黒田リーダー：送信周波数の許容偏差に関して、新型コミュニティ放送などで想定される、単局運用で送信電力が低い場合には、ある程度の緩和が可能である。そのような記載内容に修正させて頂きたいと思うが如何か。

→ 異議無し。

塩野入構成員：確認となるが、SFN運用する場合、P.9の（注1）の規定に従うということか。

黒田リーダー：その通り。

小川原構成員：資料3-2、P.139、航空無線航行システムへの干渉の検討結果について、我々はユーザーの立場であるため、技術的に正しいのか判断ができない。運用の際は規定値を順守頂いた上、受信機側は資材の調達の際にいろいろ調整させて頂きたい。

黒田リーダー：受信機側は、情報通信審議会のスコープ外であるが、製造時にメーカーと別途調整させて頂くことになると思う。

仁平構成員：資料3-2、P.121において、「3.3.8.2 標準とする偏波面」とあるが、記載内容と標題が合わないため修正した方が良いのではないか。

黒田リーダー：了。

大野構成員：16QAMの符号化率について、P.63の情報レートの表において1/2のみ利用可能である旨の記載があるが、他の個所でもそれが分かるように記載方法を工夫した方が良いのではないか。TMCCでは2/3も選択可能とも読める。

黒田リーダー：了。

大野構成員：送信周波数の許容偏差を1Hzとしたのはなぜか。ISDB-T等では、64QAMを想定して1Hzを規定した経緯がある。

土田構成員：今回採用したQPSK、16QAMでは緩和が可能であるが、既存のISDB-T方式等との整合性を考慮したこと、また、ルビジウムで同期をとるため送信機の価格も大きく変わらないとの判断から1Hzとした。

上記議論の後、リーダーより以下の連絡があった。

- ・本日の議論を踏まえて資料の修正を行う。修正方法については、リーダー及び事務局へ一任いただきたい。
- ・また、報告（案）に関する追加の修正・追加等のご意見がある場合は、4/20まで受け付けを行い、その後、マルチメディア放送システム作業班へ報告する。

(3) その他

今後の予定について、事務局より以下の説明があった。

- ・マルチメディア放送システム作業班を4/27、放送システム委員会を5/18に開催予定。

以上